

Case Report

新生児血友病における第VIII因子インヒビターの発現

Development of a factor VIII inhibitor in a newborn haemophiliac

S. Haya, J. I. Lorenzo, M.A. Dasi and J.A. Aznar

血友病 A の治療で大きな問題となるのは第VIII因子に対するインヒビター（抗体）の出現である。本症例報告は、大脳内出血を起した血友病の家族歴のない新生児（男）に関するものである。生後10日に重症血友病Aと診断され、組換え型第VIII因子（rVIII）濃縮製剤による治療が開始された。72時間後、治療

的 FVIII 血漿レベルを維持させるためには高用量の rVIII が必要であることから、インヒビターの存在が疑われた。数日後、インヒビターが確認された。この新生児血友病ではインヒビターを迅速に確認できたため、rVIII の投与を中断すること無く早期に免疫寛容療法を開始することができた。

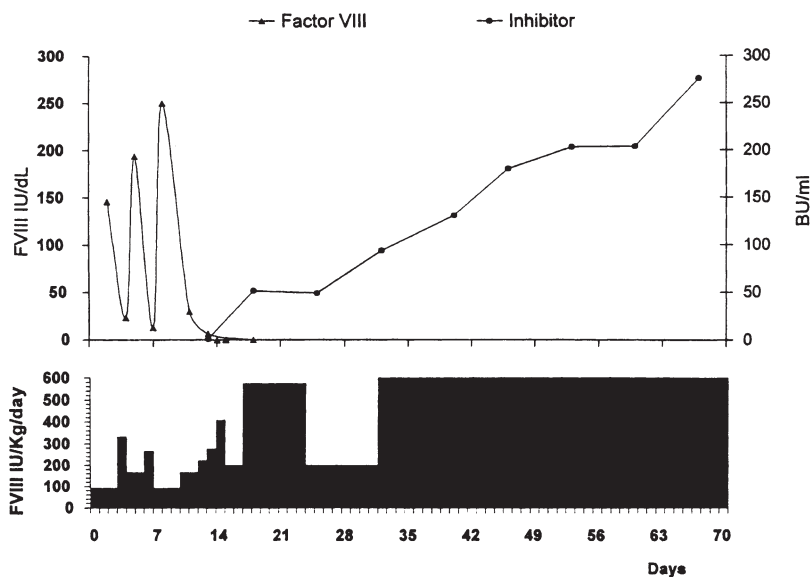


Fig. 1. Course of FVIII plasma level, FVIII inhibitor and dosage of FVIII.